

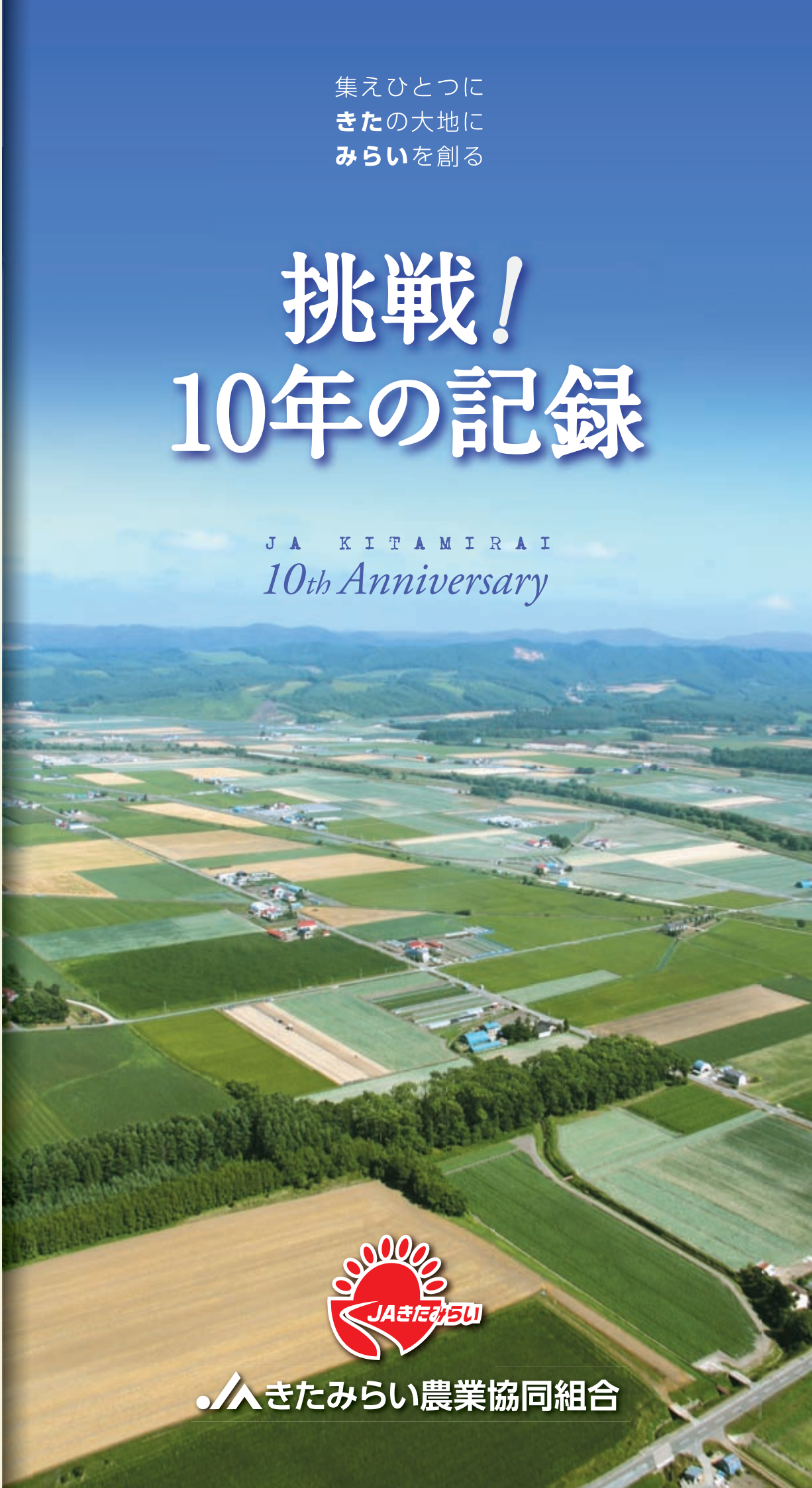
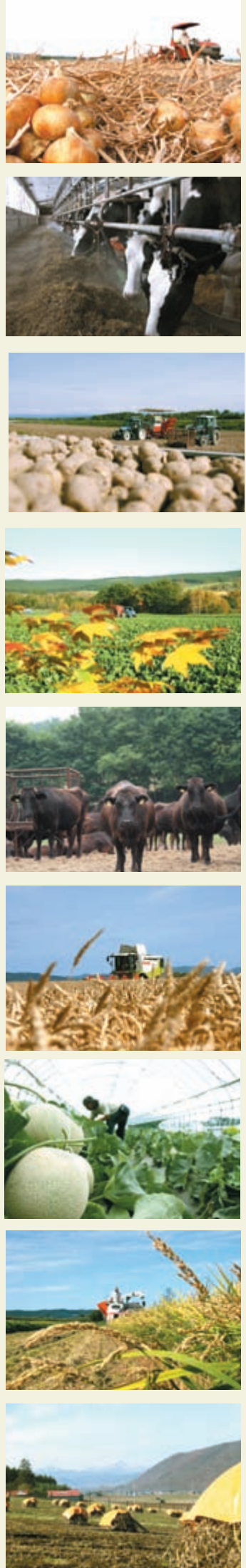
集えひとつに
きたの大地に
みらいを創る

挑戦! 10年の記録

J A K I T A M I R A I
10th Anniversary



● JAきたみらい農業協同組合



集えひとつに
きたの大地に
みらいを創る

挑戦! 10年の記録

J A K I T A M I R A I
10th Anniversary



● JAきたみらい農業協同組合

A vast field of sunflowers stretches across the foreground and middle ground, leading to a line of trees and distant mountains under a bright blue sky with scattered clouds. A single bird is captured in flight in the upper left quadrant of the sky.

JA KITAMIRAI
10th Anniversary

JA綱領

わたしたちは

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、ともに生きがいを追求しよう。

経営理念

1. 私たちは、「全ては組合員のため」という奉仕精神のもと、多様化する組合員ニーズに的確に応え、その健全経営の手助けを行います。
2. 私たちは、組織・事業活動を通じて、組合員、利用者、地域から信頼される人材づくりに努めます。
3. 私たちは、食と緑を守り、地域農業を振興することで、地域社会の活性化を図ります。

Contents

発刊にあたって	4
発刊を祝して	6
組合の概要	12
現役員	14
歴代役員	16
主な施設	18
加工商品	26
第1章 JAきたみらい誕生	29
第2章 10年のあゆみ	37
第3章 外郭団体・生産組織のあゆみ	79
第4章 合併8JAのプロフィール	145
第5章 データで見る10年のあゆみ	163

◎ 発刊にあたって

きたみらい農業協同組合

代表理事組合長 **西川 孝範**



組合員の営農と生活の向上を図るために平成15年2月1日、温根湯・留辺蘂・置戸町・訓子府町・相内・上常呂・北見市・端野町の8JAが大同団結による広域合併を成し遂げ、「JAきたみらい」が誕生してから早いもので10年の節目が過ぎました。

この合併に至るまでには、多くの皆さんの汗と知恵を結集した取り組みがあり、組合員・役員・職員、そして系統連合会並びに関係機関・団体等に対し、改めて心より感謝を申し上げます。

このたび、誕生から今日まで歩んできた歴史を、正確に後世に伝えるため記念事業の一環として記念誌を発刊いたしました。

現在、農業・JAを取り巻く情勢は、TPP（環太平洋連携協定）問題をはじめとして大きな難問が山積しております。特にTPPは、消費者に安全・安心な農畜産物を安定的に提供する使命を持つ我われにとっては、甚大な影響があることは明らかであり、地域経済が崩壊しかねない危機感のもと、

強く反対をしなければなりません。

JAの使命は、組合員が生産した安全・安心・良品質な農畜産物を消費者へつなぐ架け橋となること、JAの責任に基づく経営の健全化と組織基盤を確立し、地域や社会の信頼を得ることです。もちろん組合員の営農と生活を守ることこそ、第一義であるべきことは申すまでもありません。

第27回JA北海道大会の決議事項でもあります「持続可能な北海道農業の実現」、「次代を担う協同の実践」に向け、JAきたみらいにおいても、「地域コミュニティの発揮」と、「融合に向けてきた10年から、学習を重視する10年」と位置づけ、「魅力あるJA、選ばれるJA」、「地域に貢献できるJA」を目指したなかで、先達各位のご苦勞を想い、10周年の節目の意義を確認しなければなりません。

昨今、世界的な異常気象の頻発や、国内においても台風や竜巻、地震等想定を超える自然災害が発生しております。また、世



界の人口は70億人に達し、2050年には90億人に増加すると言われており、まさしく食料の国内自給率の向上が喫緊の課題であります。

一方、合併によって、生産物の有利販売、資材の廉価提供、施設の集約化と有効活用、管理費の合理化などを目指して努力してきたところですが、今日までの間に組合員戸数は減少し、農地の集積が大きく進むなど、農業環境も大きく変わり、組合員の高齢化と担い手不足をはじめとした多くの問題に対応していかなければなりません。

今こそ食料の生産現場である「JAきたみらい」がその力を発揮し、協同の絆と豊かな発想により、組合員、JAともに希望あふれる新時代の地域社会を目指し向上しなければなりません。時代は変わっても、JAの基本、存在意義は常に組合員とともにみらいに向けて歩むことです。

合併当初1,500戸を超えた組合員戸数も現在1,200戸を下回り、設立当時から見る

と減少しておりますが、販売高は400億を超え、戸々の経営規模も拡大しております。

今後も幾多の問題が待ち受けているものと思いますが、組合員の営農と生活を守り、更なるきたみらい農業・農協の発展を目指して、組合員の皆さまと役職員が一体となり、努力していく所存であります。

組合員がJAに何を求めているかを的確に捉え、また地域住民の理解と支援を広く求めながら、10年という節目を機に、JAの役割をしっかりと自覚し、きたみらい農業・農協の更なる前進と発展を期するため、組合員共々一層努力してまいりますので、組合員はもとより関係者各位、関係諸団体の皆さまには、今後とも特段のご協力をお願い申し上げます。

最後に10年の歴史をさらに加えて躍進することをお誓い申し上げごあいさついたします。